

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価 (3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒一人ひとりの多様な進路を見据えた教育課程の検証と必要な改善を図る。 ②生涯にわたり自ら学ぶ力を育み、社会に貢献し次世代を創る資質と能力を育成するための授業研究を進める。 ③主体性をもって考え、課題に向き合い、解決する意欲と能力を育む総合的な探究の時間の充実を図る。	②研究テーマを設定し、実現に向けた授業実践、研究活動を行う。 ③総合的な探究の時間における個人探究を中心に、重層的なPDCA サイクルを意識した指導計画の策定および指導改善を図る。	②各教科での検討、授業実践、公開研究授業を行う。 ③計画案をもとにした各学年の取組を共有し、指導計画作成に取り組む。また総合的な探究の時間の研修会を実施する。	②研究テーマに沿った授業研究を進め、公開研究授業の円滑な運営ができたか。 ③各学年の取組を共有し、指導計画を作成できたか。	②研究計画を作成し、各教科で課題解決に向けて協議して、公開研究授業を行った。 ③情報共有のための会議を設定するとともに各学年の指導計画を作成した。外部講師を招き、総合的な探究の時間に関する研修会を実施した。	②教科の組織的な取組を一層進める。 ③総合的な探究の時間に係る情報共有の場を定期的に設定してより良い指導計画の作成と振り返りを行う。	研究計画を作成して教科での検討、公開研究授業を実施するなど授業研究を進めた。 総合的な探究の時間について、研修会を実施するとともに職員間で情報の共有を図り、重層的なPDCAサイクルを意識した指導計画を作成した。	②各教科内で検討して授業案などを作成し、組織的に取組んだ。より一層の充実が求められる。 ③総合的な探究の時間に関する共通理解を図り、指導計画を作成したが、教員全体の共通理解をより深めていきたい。	②学校全体で研究テーマの理解を深め、より組織的な取組を進める。 ③総合的な探究の時間の指導内容・方法等の検討する機会をより多く確保するよう努める。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①生徒が「自主・自律」の精神を培い「規律ある学校生活」を送るため生活の心得の検証と見直しを図る。 ②他者と協働する力を育成するため、部活動を活性化するため、部活動を企画し、立案し運営していく力を育むため、特別活動の充実を図る。 ④生徒一人ひとりが充実した学校生活を送るため、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを活用した教育相談体制を構築し実践する。	①生徒が「自主・自律」の精神を培い「規律ある学校生活」を送るため、生徒指導における指針を定め、それに則った生活の心得の検証と見直しを図る。 ③生徒が学校行事を運営する力を育むとともに、行事の内容を検証し改善する。	①職員あるいは生徒の意見を集約して生徒指導における指針を定め、それに基づいて生活の心得を検証し、必要であれば見直す。 ③皁月祭について、行事を運営する生徒と教員で話し合う機会を増やし、よりよい内容を検討する。	①生徒の心得が生徒指導における指針に則ったものか。生徒および職員の共通見解はとれているか。 ③皁月祭終了後に、行事を運営する生徒に対してアンケートを実施し、教員との話し合いが十分できたと回答する生徒が75%以上になったか。	①生徒および保護者へのアンケートを行って、改定すべきポイントを精査し、生活の心得および服装規定を改定した。また、猛暑時の軽装許可など、弾力的な服装規定の運用にも努めた。 ③皁月祭体育部門において、行事を運営する生徒と連絡を密に取り細部まで検討した。その結果、当日は円滑な運営ができ、実施後の生徒アンケートでも教員と十分な話し合いができたこと回答した生徒がほとんどとなった。	①生徒の実情や社会通念の変化と照らし合わせながら、生活の心得を検証しつづける。 ③皁月祭文化部門でも同様の結果が得られるか。教員とも話し合いが不足していると回答した生徒の人数を減らすことができるか。	①生徒の実情や社会通念の変化と照らし合わせながら、生活の心得および服装規定の改定を行ったことは評価できる。生徒の主体性を活かすことは重要だが、ルールを明確に線引きする視点も欠かせない。 ③皁月祭が生徒主体で実施されている点は評価できる。さらなる内容の充実を図り、生徒の満足度を高めてほしい。	①生活の心得および服装規定を、生徒の実情や社会通念に合わせて改定し、生徒の「自主・自律」を促す運用とすることができた。 ③皁月祭体育部門において、実行委員の生徒と綿密な連絡を取り実施した。生徒アンケートでは生徒からの不満の声はほとんどなかった。	①生徒の実情や社会通念の変化と照らし合わせながら、生活の心得や服装規定を検証しつづける。 ③皁月祭の大きな流れは確立されたといえるが、生徒の満足度をさらに上げるために、実行委員の生徒たちと改善策を検討していく。
3	進路指導・支援	①入学直後から積極的に自らの将来を考え、社会人として活躍できる人材となる目標をもたせられるように、多岐にわたる情報を提供していける支援体制を整える。 ②高校卒業後の進路を深く意識する機会をつくり、希望の進路実現に向けて、自ら意欲的に学習に取り組み、他者とも積極的に関係を築いていける生活環境を整える。	②各学年において進路実現に必要なとされる準備段階をたどらせることにより、高校卒業後の進路を深く意識しながら学校生活を送ることができる環境を整える。	②進路指導の際に利用する『進路のしおり』を全面改定することで、各学年の段階において自身の進路をより強く意識させられるよう、その活用を推進する。また、キャリアカウンセリングを通じて作成されるキャリアパスポートの活用推進も同時に図る。	②『進路のしおり』の利用率およびキャリアパスポートの活用率80%以上を達成することができたか。	②『進路のしおり』の活用は生徒・教員共に非常に高い頻度で活用されており、おおむね目標は達成されていると推察する。キャリアパスポート活用の普及率は昨年度と比べて上がっており、進路指導の改善が進んでいる。	②『進路のしおり』記載の内容については毎年度検討が図られ、更新が継続的になされるのが望ましい。キャリアパスポートについては、制度的な定着は達成される一方で、形骸化とならないよう、教員への啓発を続けていく必要がある。	『進路のしおり』を刷新され、進路指導に活かしている点はとても評価できる。このような仕組みづくりをもって組織的な運営をされていることは素晴らしいと思う。キャリアパスポートの整備にも順調に進んでいるようで、これからは生徒に寄り添った進路指導を期待したい。	『進路のしおり』やキャリアパスポートなどの資料が整い、その活用が進むことで、生徒一人ひとりへの進路指導を向上させることができた。一方で、保護者に本校の取組みを理解いただく機会を十分に設けることができなかった点は課題である。	先の課題を受け、例年行っている進路講演会の形式を変えて実施する。本校職員が保護者に対して本校の教育活動(進路指導)の在り方を共有し、学校と家庭が協力して生徒を支えていける進路指導の体制づくりを目指す。
4	地域等との協働	①他者と協働し社会に貢献する力を育成するため、地域の幅広い年齢層の方々と交流する機会を提供する。 ②生徒が自ら地域に根差した活動ができるよう連携を深め、開かれた学校づくりに取り組む。	①②地域の様々な機関との交流を行いながら地域社会へ貢献できる活動に取り組む。	①②地域貢献活動等の機会をとおして、地域の方々と交流し、協働して社会に貢献する力を育成する。	①②地域の方々から率先して交流し、協働して活動することができたか。	①地域での清掃活動を予定通りに実施できた。 ②近隣の中新田小学校との交流において吹奏楽部、合唱部、バトン部を中心に発表や夏祭りの演奏を行った。ダンス部においては自治会の納涼祭で発表を行った。	①周辺地区自治体の方々に挨拶し、率先して清掃活動ができるか。 ②地域と協働を保ちながら継続性のある活動となっているか。	今後も地域に根差した活動を継続して行ってほしい。夏祭りの吹奏楽の演奏、自治会でのダンス部パフォーマンスは素晴らしいかった。中新田小学校との交流も深められ、交流を通じて生徒、子どもたちが成長を感じる機会であった。	①周辺自治会の方々に見守られ無事に地域貢献活動を終えることができた。今後も継続できるよう努めていく。 ②年間を通して昨年度よりも部活動の地域交流の機会が増えた。	地域の一員として生徒の精神を醸成し、率先して清掃活動や奉仕活動ができる心情を育てる。
5	学校管理 学校運営	①生徒が主体的に実践する校内設備の維持・改善及び校内美化の推進に取り組む。 ②生徒の防災意識の向上及び防災について地域との連携のあり方を検討し実践する。 ③業務のデジタル化に取り組む。 ④引き続き、職員の働き方改革と不祥事防止に取り組む。	②生徒の防災意識をより高めるような、避難訓練・帰着地訓練、及びDIGを実施する。 ④職員の時間外在校等時間の縮減と不祥事ゼロを目指す。	②生徒に迅速な避難行動を促すような、緻密な訓練計画を立案する。 ④職務の精選や効率化を推進する。また、校内研修等を通して不祥事を防止する。	②生徒の防災意識を高めることができたか。 ④職員の時間外在校等時間が縮減したか。また、職員の不祥事ゼロが達成できたか。	②従来2時間使っていた防災訓練・帰着地訓練を、今年度は1時間で行った。生徒は迅速に行動し、防災意識を高めることができた。 ③時間外在校等時間の平均は25.47時間であった。また、事故や不祥事を防止することができた。	②校内の火災だけでなく、大きな地震が起きた時にどのように行動するかなど、より実践的な防災訓練の実施を計画する。 ④時間外在校等時間の月平均が45時間以上となる職員が十数人おり、これを減らすことが課題である。	職員が困難な中、訓練の時間を2時間から1時間に短縮できたのは評価できる。県、市、自治会、学校の垣根を超えた防災意識を更に高めていくべきである。	従来2時間使っていた防災訓練・帰着地訓練を、今年度は1時間で行った。生徒は迅速に行動するようになった。また、DIGの実施方法を変えたことで、より生徒の防災意識を高めることができた。	避難訓練の際に、生徒への備蓄食料の効率的な分配方法を考案する。 職員の状況を把握し、年休取得や定時帰宅を促す。また、不祥事防止研修を行い、職員の意識啓発に努める。